【参考資料】斑点米カメムシ類について

佐賀県農業技術防除センター

１．発生種

・籾を加害し、黒色または茶色の斑点ができた玄米（斑点米）を生ずるカメムシ類を総称して「斑点米カメムシ類」と呼ぶ。

・本県で発生する斑点米カメムシ類はクモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、シラホシカメムシ類、アオクサカメムシ、イネカメムシ等である。

・多くの種が水田周辺の雑草に生息し、出穂期になると水田に侵入し穂を加害する。

斑点米

クモヘリカメムシ成虫

ミナミアオカメムシ成虫

２．形態・生態

（クモヘリカメムシ）

・成虫は体長 15～20㎜ の大型種で、年間の発生世代数は１～３世代程度。幼虫は５齢を経過して成虫になる。

・成虫は細長い形をしており、体色は緑色であるが翅は褐色である。

・スギ、ヒノキの林地、樹木枝葉、樹冠等で成虫で越冬する。４～５月に活動を始め、結実の早いイネ科の雑草や飼料作物等で生活し、イネが出穂すると稲穂に集まる。そして籾を吸汁加害するとともに、雌成虫はイネ穂上に産卵し、ふ化した幼虫も籾を加害する。

（ミナミアオカメムシ）

・成虫の体長は 12～16 ㎜で、年間の発生世代数は３～４世代。

・成虫はやや細長い六角形状で、体色は緑色型、緑斑型など色彩変異がある。

・越冬成虫は４月から活動を始め、麦、アブラナ科植物、タデ科やイネ科の雑草に飛来して産卵する。

・第１世代成虫は６月頃から発生し、マメ科、イネ科植物、ナス科作物（ナス、トマト、ピーマン等）などで繁殖し、秋までに３～４世代を経過する。

・９月下旬～１月上旬に越冬場所へ移動し、成虫で越冬します。越冬場所は枯れたイネ科植物で覆われた地表付近や積み藁の中、常緑樹の樹冠部などで、風当たりや温度差が少ない場所を好む。
・広食性で水稲、大豆、小麦をはじめ、ナス、トマト、ピーマン等の野菜類、カンキツ、ナシ、モモ等の果樹類など、32 科 145 種の植物に寄生・加害することが知られている。

３．被害
・籾を吸汁して斑点米を発生させる。斑点米が収穫物に混じると，検査等級が落ちるおそれがある。

４．発生しやすい条件
・畦畔や通路に雑草が繁茂している。
・気温が高く、降水量が少ない。

５．防除対策
・圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、除草作業を出穂 10 日前までに行う。出穂直前以降の除草は水田内へ斑点米カメムシ類を誘い込み被害が大きくなるので、この時期には草刈りを行わない。
・薬剤防除は穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の 10 日後）の２回実施する。

病害虫名	発生予察のための情報		本田における病害虫の防除適期	本田防除の目安 （要防除水準）
	農業技術防除センター※からの予察情報	地区での調査		
カメムシ類	① 県内の発生株率 （雑草地、本田内での20回振りすくい取り虫数） ② 気象条件	① 雑草地、本田内での20回振りすくい取り調査（虫数）	止葉出葉 穂ばらみ 出穂期 穂揃期 乳熟期 −15 −10 −5 0 +5 +10 +15 +20 並発生 ←→ 多発生 ←→ ←→	◎ 並発生：穂揃い期～乳熟期の20回振りすくいとり調査で5頭以上。 多発生：山間山麓の早期、早植え水稲で、上記の虫数以上の場合。

６．斑点米の選別
・斑点米の選別には、色彩選別機が用いられている。